

かっちゃん南風原
景観まちづくり計画(案)

目次

1. はじめに	1
(1) 「かっちん南風原景観まちづくり計画」とは	1
(2) 計画の対象範囲	1
2. 特性と課題	2
3. 目標	4
4. 景観まちづくりの方針	5
5. 景観まちづくりの進め方	6
6. 重点施策	7
(1) 景観づくりの基準	7
(2) 景観に関する整備方針等の検討	10
(3) 活動組織	13

はじめに

景観まちづくり計画の位置付け、対象範囲を示します。

(1)「かっちん南風原景観まちづくり計画」とは

世界遺産である勝連城跡のお膝元である勝連南風原集落は、市内外からの注目度が高く、城跡の風格を守るための景観づくりが急務となっています。そこで、勝連南風原景観まちづくり検討会等の意見を踏まえ、地区の特性を活かしたまちづくりを進めることを目的として、「かっちん南風原景観まちづくり計画」を策定します。

本計画は、景観法に基づく「うるま市景観計画」に位置づけられ、対象区域はうるま市景観計画の重点地区として位置付けられます。

本計画をもとに、市民・行政等の協働の取り組みにより景観まちづくりの具体的な取り組みを進めていきます。

(2) 計画の対象範囲

下記の範囲を「勝連南風原地区」と位置づけます。



特性と課題

景観における地区の特性と課題をまとめます。

1. 城跡の雰囲気に合わせて県道 16 号線沿いの街並み形成

- ・ 県道 16 号線を利用して川田から南下すると、正面に勝連城跡の風格のある姿をのぞむことができます。
- ・ しかし、現状では、勝連城跡に向かうメインストリートにふさわしい景観づくりがされているとは言えない状況にあります。
- ・ 街路樹の種類や植え方、道路の美化、景観を阻害するおそれのある電柱・電線、ガードレールなどの配置やデザインといった道路環境を構成する要素の改善を図るとともに、歴史的な雰囲気を感じられるよう、沿道建物の景観誘導が求められています。

2. 城跡周辺集落の建築物等の立地や景観誘導

- ・ 世界遺産である勝連城跡の周辺には字南風原や浜屋、シートピアなどに集落が形成されています。集落内の建物等の大半は現代的なものが多く、勝連城跡の歴史的な雰囲気と必ずしも調和しているとは言えない状況にあります。
- ・ 勝連城跡との一体感を生み出すため、集落内の建物等は伝統的な様式を用いるなど、歴史的な雰囲気を感じる街並み誘導が求められています。

3. 勝連城跡の魅力を高めるための史跡の保全・整備

- ・ 勝連城跡は、グスク時代に活躍した「阿麻和利」の居城として知られており、珊瑚質石灰岩の切石を使って曲線状に築かれた風格のある姿は今なお人々の心に感動を与えています。また、小高い丘陵を利用して築造された城跡からは、周辺の街並みや海を 360° 見渡すことができます。
- ・ 一方で、近代の市街化の進展により、勝連城跡付近に墓地や建物などが立地するようになりました。
- ・ 勝連城跡の風格のある歴史的・景観的魅力を維持・保全するために、史跡の保全・整備を図ります。

4. 城跡周辺にある資源や地域の良さの認知度向上・ネットワーク化・活用

- ・ 勝連南風原集落には、勝連城跡に関連する史跡や、集落で暮らした人々の営みを感じられる史跡、美しい緑や海といった自然環境など、多くの資源が残されています。
- ・ しかし、資源の中には地域の人にも知られておらず、手つかずのまま埋もれているものも多い状況です。また、海や池、緑などの自然についても必ずしも管理・活用状況が良いとは言えない状況にあります。
- ・ 点在する資源を地域で再認識し、資源の保全を図るとともに、それらを回遊ネットワークとしてつなぎ、観光などに活かすことが求められています。

特性と課題図

1.
勝連城跡に向かうメインストリートにふさわしい景観づくりがされているとは言えない



県道16号線

3.
近代の市街化の進展により、勝連城跡付近に墓地や建物などが立地している



勝連城跡周辺の景色

2.
周辺の建物等の大半は現代的なものが多く、勝連城跡の歴史的な雰囲気と必ずしも調和しているとは言えない



南風原集落



勝連城跡からの景色

4.
資源のネットワーク化がうまくできていない



予備田原池



アガリガー



3

目標

地区の特性と課題などを踏まえ、景観まちづくりの目標を掲げます。

緑が輝く肝高の歴史が息づくまち



- ・「肝高」の風格をもつ風光明媚な勝連城跡と、城下町の雰囲気を感じられる古き良き風情のある集落が一体となったまちを目指します。
- ・勝連城跡だけでなく集落内に残る史跡や伝統文化を後世に受け継ぐ意識を持って大切に守り・育むとともに、勝連南風原の歴史を集落内外に発信できるまちを目指します。



- ・勝連城跡の雰囲気にふさわしい緑・花が多いまちを目指します。
- ・四季折々の花が楽しめるまちを目指します。
- ・美しい海への眺望を守りつつ、海を楽しめるまちを目指します。



- ・あいさつがたえないまち、子どもたちが元気に遊ぶまち、ゴミが落ちていないまちなど、まちの雰囲気から地域の人々がまちに対して愛情と誇りを持って暮らしていることが感じられるまちを目指します。
- ・勝連城跡を中心とした活気あるまち、観光客がまた来たいと思えるまちを目指します。

4

景観まちづくりの方針

景観まちづくりの方針を掲げます。

1. 県道 16 号線の整備と沿道の景観誘導

- ・「肝高」の風格があり風光明媚な勝連城跡に向かうメインストリートにふさわしい雰囲気づくりを進めます。

2. 城跡西側の整備・活用

- ・勝連城跡のかつての表玄関だった城跡西側に残る多くの歴史的資源や古道を復元し、それらを結び、回遊ルートとして活用することを提案します。
- ・南風原集落の旧集落に残る史跡を活用します。
- ・近接する海への眺望や海とかかわりのある史跡（港、御嶽）などを活用します。

3. 城跡東側の整備活用

- ・勝連城跡の休憩所から予備田原（ユビダーバル）の池を回遊できるように整備し、活用することを提案します。

4. 勝連城跡周辺の景観誘導

- ・勝連城跡と一体感のある城下町の雰囲気を感じられる古き良き風情のある集落の街並みづくりを推進します。
- ・県下でも珍しい区割りの残る南風原集落の街並みを保全します。
- ・勝連城跡の景観や地域振興に影響を及ぼす恐れのある行為を規制・誘導します。

5. 城跡の復元・整備

- ・勝連城跡の歴史的な雰囲気や城跡からの眺望などに配慮した公園整備を提案します。

6. 城跡周辺の資源を結ぶネットワークの形成

- ・勝連城跡を中心に周辺に多く残る歴史的・文化的資源や、緑、海、集落を結び、勝連南風原を楽しく回遊できるまちを目指します。
- ・誰もが安全に安心して回遊を楽しめるまちを目指します。

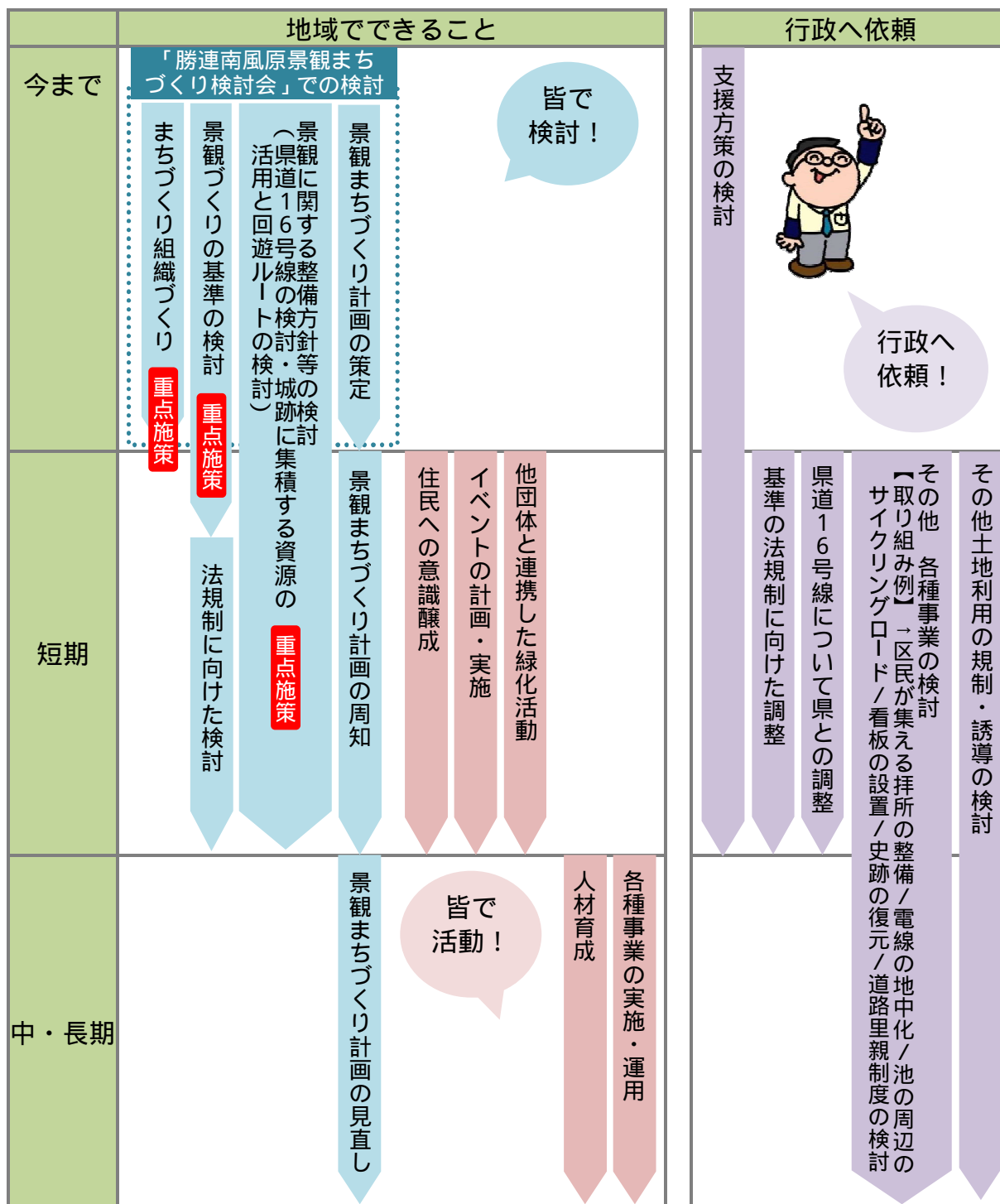
7. 地域主体のまちづくりの推進

- ・地域の人々が勝連南風原の良さに「きづける」きっかけをつくり、まちを大事にする意識を高めます。
- ・目標の実現に向けて一人ひとりができることから取り組みを進め、地域一丸となってまちづくりに取り組む風土や体制を育成します。

5

景観まちづくりの進め方

景観まちづくりに向けた今後の活動内容を、地域でできること、行政へ依頼することに分け整理します。



上記の取り組みのうち、城跡の風格を守るための景観づくりに向けて重要と考える「景観づくり基準の検討」「県道16号線の検討」「まちづくり組織づくり」を重点施策として設定します。

6

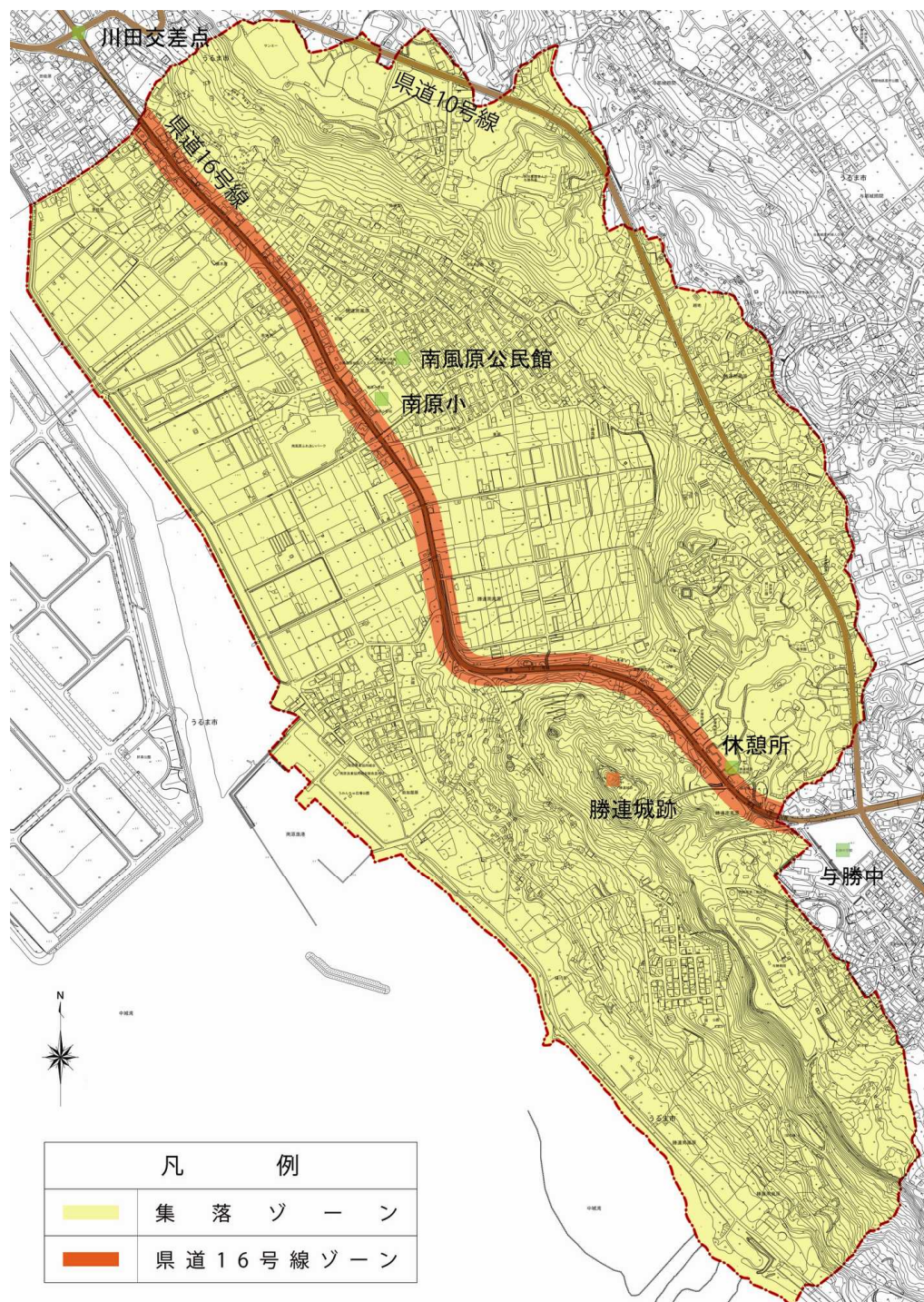
重点施策

重点施策として掲げた3つの取り組みについての検討結果を整理します。

(1) 景観づくりの基準

「勝連南風原景観まちづくり検討会」で検討した内容をもとに、良好な景観を形成していくための基準を提案します。

ゾーン図



守るべき基準

		集落ゾーン	県道16号線ゾーン
建築物の形態意匠	屋根・外壁	・屋根はできる限り赤瓦または灰色瓦ぶきとします。 ・外壁はできる限り琉球石灰岩などの本市または本県の景観特性を特徴づける地場産材や、木材、石材などの自然素材の活用に努めることとします。 ・外壁の大部分を占める色彩は、落ち着いた白または淡い色彩を基調とし、周辺景観等の調和に配慮することとします。(明度8以上、彩度2以下。ただし、木材・石材・素焼き・コンクリートなどの素材色は除きます) ・デザインのアクセントとして壁面や軒裏に対して基調色の範囲外の高明度・高彩度の色彩(アクセント色)を使用する場合は、周辺景観との調和に配慮するとともに、使用面積は各立面の表面積の5%以下にとどめることとします。	
	建築設備等	・屋外に設置する建築設備の高さは5m以下とします。 ・屋外・屋上に設置する建築設備については、道路や公園等の公共の場所から容易に見通せないような場所に配置したり、遮蔽するなど、目立たせないように工夫することとします。 ・駐車場・ガレージを設置する場合は、設置場所に配慮するとともに、周囲と調和した塀等を設けること等によりまちなみの連続性が損なわれないように配慮することとします。 ・屋根・庇・門など、公共の場所から望める位置にできる限りシーサーまたは石獅子を設置することとします。	
	かき・柵・塀	・かき・柵・塀を設ける場合は、石積、石張、生垣のいずれかとします。 ・高さは1.5m以下とします。	
建築物の高さの最高限度又は最低限度		・高さ11m以下とします。(最大3階程度)	・高さ11m以下とし、できる限り2階建以下とします。
緑化等		・緑地率20%以上または緑被率30%以上とします。 ・敷地内緑化にあたっては、地域の植生等と調和する種類を選ぶこととします。	
			・グスクロードに位置付けられた道路沿いの敷地は、道路に面する部分の緑視率を15%以上とします。

イメージ図



あくまで基準の内容を守り建てた場合のイメージです。

(2) 景観に関する整備方針等の検討

県道 16 号線の整備方針

県道 16 号線は市の主要な都市交通の骨格としての機能を持つほか、「肝高」の風格があり風光明媚な勝連城跡に向かうメインストリートです。

そのため、周囲の景観に配慮し、メインストリートとしてふさわしい雰囲気づくりを進めます。

そこで、県道 16 号線の整備にあたっては、下記の内容で整備することを提案するとともに、今後、管理基準等について地域で更なる検討を行います。

街路樹	・街路樹は現在のガジュマルやフクギを撤去して、世界遺産にふさわしい樹種に変える。統一した街路樹とし、街路樹の間には花を置く ・台風に強い街路樹が望まれることから、市木でもあるリュウキュウコクタンが考えられる
歩道	・歩道の拡張 ・歩道は琉球石灰岩の石畳とする ・マンホールの蓋などの鉄蓋のデザインを検討する
道路	・車道の色は明るい色が良い ・自転車道の整備を図る ・観光客のリピーターを図るため、県道16号線沿いに記念木が植えられるスペースを設ける
電線	・地中化の促進
街灯	・街灯のデザインに配慮する(例えば、シーサーのオブジェの設置、灯籠などの低いもの、銀色以外)
ガードレール	・歩道の幅員によりデザインが異なってくるが、自然素材のものや落ち着いた色のものが良い
サイン	・自転車道が整備されるのであれば、自然素材を使用した歴史を感じられる案内板の整備が必要である ・可能であれば、道路標識の設置の仕方(デザイン等)にも配慮する ・特に、勝連城の邪魔にならないような設置位置に配慮する
管理	・街路樹の管理を地域で行うことについて検討 ・地域と行政が連携し、沿道の清掃を徹底する

イメージ図



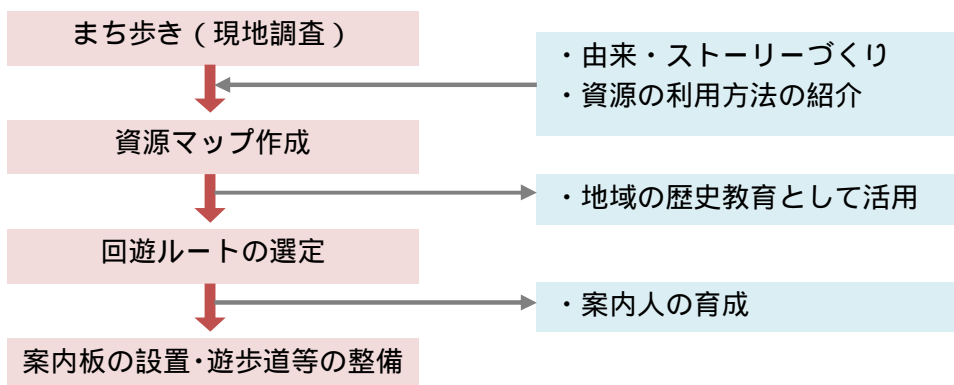
あくまで検討内容に沿って整備した場合のイメージです。

城跡に集積する資源の活用と回遊ルートを検討

勝連城跡周辺には歴史的・文化的資源が多く残っているため、これらの資源や緑、海、集落を結び、勝連南風原を楽しく回遊できるまちを目指します。

そこで、資源の再認識を行うとともに、回遊ルートを中心となる道路や資源等について修景整備等の検討を行います。

今後の取り組み内容



地域資源一例



マンナカガー



イリカー



村獅子



予備田原池

(3) 活動組織

地域の特徴を活かした良好な景観まちづくりを進めていくためには、個人レベルの活動だけではなく地域ぐるみの取り組みが重要です。そのため、今後は地域住民が主体となり、景観形成に向けた話し合いや取組を行っていただける組織をつくります。

